

第4章 施策の体系

本計画では、基本目標を実現するため、前計画での5つの施策の柱を、「文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり」「地域文化の保存・継承・活用による地域づくり」「ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出」「総合的な推進のための支援・連携体制の構築」の4つに整理し、新たに「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上」を加えた5つの施策の柱とします。

基本目標	施策の柱	施策の展開
ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティの醸成でつくる心豊かな県民生活と活力ある千葉県	1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり ～あらゆる人々が文化芸術を享受するために～	県民の自主的な文化芸術活動の促進
		様々な場における文化芸術にふれ親しむ機会の提供
		子どもたちの文化芸術活動の充実
		高齢者・障害者等の文化芸術活動の充実
	2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり ～あらゆる地域で地域文化が息づくために～	伝統文化にふれる機会の提供
		伝統文化の保存・継承、担い手の育成
		文化財の保存整備の支援
		文化的景観等の保全・活用
		文化資源の活用と地域の活性化
	3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出 ～多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信するために～	多様な文化の発展
		「ちば文化」の魅力の発掘と情報の収集・提供
		「ちば文化」の魅力を発信する文化事業の充実
	4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築 ～「ちば文化」を支えるひとを育て、つなぐために～	「ちば文化」を担うひとづくりの推進
		文化のネットワークの構築
		多様な支援体制の構築
文化発信拠点としての文化施設等の機能の充実		
5 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上 ～更なる発展に向けて～	新しい文化と古くからの文化が織りなす「ちば文化」の世界への発信	
	障害者、高齢者、青少年、外国人等、国内外のあらゆる人々が参加・交流できる機会の創出	
	観光等様々な分野との連携による文化資源の活用	
	文化プログラム関連イベントの実施により得られた資源の活用	

1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり ～あらゆる人々が文化芸術を享受するために～

文化芸術活動の機会を提供し、文化芸術活動の裾野を広げることで、文化芸術の創造活動が盛んになることが期待されます。そして、活動が継続され、発展していくことで、その活動が地域の文化資源となり、宝となります。

文化芸術活動を行う人々の自主性や創造性が十分尊重されるとともに、いつでもどこでもだれでも等しく文化芸術にふれ親しみ、鑑賞し、参加し、創造することができるよう、様々な機会を提供していきます。

特に、子どもたちや高齢者及び障害者等が、文化芸術にふれ親しむことができるような機会の充実を図っていきます。

< 施策の展開と主な取組 >

県民の自主的な文化芸術活動の促進

県は、県民自らが主体的に文化芸術活動に取り組めるように、「千葉・県民芸術祭」など、文化芸術団体が行う事業に、県民の一層の参加を促すとともに、文化施設を、県民による自主的な文化芸術活動の場として活用していきます。

また、こうした文化芸術活動に関連する情報を、県ホームページなどを通じて提供します。

県民が文化芸術活動に参加できる場づくり

県と文化芸術団体との共催で開催する「千葉・県民芸術祭」、文化施設が開催する催しものなど、県民が文化芸術活動に積極的に参加できる場をつくります。

文化施設における県民参加型事業の推進

県民による文化芸術の活性化や文化芸術活動のすそ野拡大のため、文化施設を発表や練習、講座やワークショップ、展覧会等、文化芸術活動の場として活用していきます。

文化芸術活動に関する情報の収集・提供

市町村や文化芸術団体等と連携して県内各地の文化芸術活動の情報を収集し、県ホームページ「ちば文化交流ボックス」や県広報紙「ちば県民だより」など、様々な媒体を利用して、県民が参加できる各地の文化芸術活動や行事などを紹介します。

様々な場における文化芸術にふれ親しむ機会の提供

多くの県民が優れた文化芸術を鑑賞できる機会を充実させるため、芸術家や文化芸術団体と連携して、文化施設において質の高い演奏会や展覧会等を実施します。

また、文化芸術にふれ親しむ機会を広げるため、文化施設以外の様々な場でも気軽に文化芸術にふれ親しむことができるような機会の提供を図るとともに、県ホームページなどで文化芸術に関する情報提供を行います。

さらに、様々な場面を通じ、県民・子どもたちが優れた出版物にふれ親しむ機会を提供します。

文化施設における質の高い公演や展覧会等の充実

文化会館等での国内外の著名なアーティストによる公演やニューフィルハーモニーオーケストラ千葉が出演する「県民芸術劇場公演」、美術館や博物館での魅力ある展覧会などの催しを行います。

文化施設以外での公演等の鑑賞の機会の提供

様々な場において文化芸術にふれ親しむことができるよう、市町村や文化芸術団体等と連携を図りながら、文化施設に限らず、公演や展覧会などの機会を提供します。

公演や展覧会等に関する情報提供

公演や展覧会等の情報を、県ホームページなどの媒体を活用して提供します。

「読書県『ちば』」の推進

図書館や学校等における読書環境を整備し、読書に親しむ機会の充実を図ります。

子どもたちの文化芸術活動の充実

次代を担う子どもや若者に対し、優れた芸術作品や郷土芸能など、多彩な文化芸術にふれ親しむ機会を提供することによって、豊かな心と感受性をはぐくむとともに、文化芸術に対する興味や関心を育てます。

小・中学校をはじめとする学校教育の場で、多彩な文化芸術にふれる機会の充実を図るため、音楽鑑賞教室やワークショップなど、質の高い文化芸術にふれる機会を提供するとともに、専門家による指導を受ける機会を設けて、知識や技術の向上を図ります。

また、「読書県『ちば』」としての機運を高めていくため、学校等における読書活動を推進します。

子どもたちが文化芸術にふれ親しむ機会の提供

子どもたちに対し、その発達段階に応じて、文化芸術団体や文化施設と連携しながら、優れた芸術の鑑賞機会を提供し、感性や創造性をはぐくみます。

学校教育における文化芸術活動の充実

芸術科目や専門高校に設置されているデザイン系の科目等に係る授業を通じ、子どもたちに文化芸術についての知識・技能を培います。

ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉を活用した学校での音楽鑑賞教室、美術館による実技講座・ワークショップ等、文化芸術団体による伝統芸能体験事業などを通じて、文化芸術の鑑賞や体験演奏などの表現方法の指導を、学校の授業や行事の中で行います。

学校の部活動等では、児童生徒による文化活動が盛んに行われています。その活動の向上発展を図るため、芸術家や文化芸術団体等と協力して児童・生徒が指導を受ける機会を設けるとともに、高等学校総合文化祭の支援等を行います。

また、学校図書館の蔵書を充実するなど、学校での読書活動を一層進めていきます。

発掘で出土した文化財の学校等と連携した活用

出土した文化財を用いた学習キットを作成し、小学校に配付します。

子どもたちの文化芸術活動への支援

広く子どもたちが文化芸術にふれ親しむ機会を提供するとともに、国内外で活躍して

いる千葉県少年少女オーケストラの活動を支援するなど、文化芸術活動に取り組む子どもたちの中から次代を担い、世界で活躍する芸術家が育つような環境づくりに取り組みます。

高齢者・障害者等の文化芸術活動の充実

高齢者や障害者、子育て中の保護者等が文化芸術に親しみ、自ら文化芸術活動を楽しめるよう、福祉分野等との連携を図りながら、文化芸術の鑑賞機会の充実や発表の場の提供、講座やワークショップなど文化芸術活動に積極的に参加できる場づくりに努めます。

高齢者や障害者等を対象とした文化事業の実施

文化芸術団体によるアウトリーチ活動など、高齢者や障害者等が文化芸術にふれる機会の充実を図るとともに、自ら参加したり、創造する場づくりに努めます。

障害の有無にかかわらず文化芸術活動に参加できる場づくり

県民自らが障害の有無にかかわらず主体的に文化活動ができるよう、文化施設等と連携し、機会の提供を図ります。

<成果指標>

目標項目	現状 (平成 22 年度)	目標 (平成 32 年度)
文化会館・美術館・博物館の入館者数	約 330 万人	増加を目指す
学校における文化芸術活動の取組事例	学校における取組事例を収集・公表します。(定性)	

2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり

～あらゆる地域で地域文化が息づくために～

郷土芸能や伝統技術、衣食住に係る文化をはじめ地域の生活に根差した伝統文化は、私たち県民の誇るべき宝です。伝統文化にふれることで、郷土への愛着をはぐくみ、アイデンティティーが醸成されます。

しかしながら、少子高齢化による担い手不足から、存続が懸念されているものもあり、後継者育成は急務となっています。

伝統文化にふれる機会を提供するとともに、担い手を育成し、次世代へ継承していくことが必要とされています。

そして、保存・継承を進めるとともに、ちばの文化資源を活用し、地域の活性化につなげていきます。

< 施策の展開と主な取組 >

伝統文化にふれる機会の提供

県民の伝統文化への関心を促すため、伝統文化にふれる取り組みを推進します。

また、衣食住に係る文化をはじめ地域の生活に根ざした「くらしの文化」の調査や再現等を行い、まちづくりや観光にも活用するほか、体験型博物館等を活用して紹介します。

郷土芸能の公開の促進

県内各地に伝わる芸能が一堂に会する「房総の郷土芸能」等を開催し、広く紹介・公開する機会を設けます。

伝統文化体験機会の充実

県立博物館等や農林水産分野等との連携を図りながら、房総の風土から生まれた食文化などの「くらしの文化」体験の機会を拡げます。

伝統的工芸品展の開催等

県内の工芸品を多くの県民に知ってもらうための展示会等を行います。

伝統文化の保存・継承、担い手の育成

県内各地に伝えられてきた郷土芸能や伝統技術は、本県の貴重な財産として継承し、次世代に伝えていく必要があります。地域の郷土芸能や伝統技術を、当該地域の住民だけでなく、広く公開する機会を設けることにより、普及と担い手育成に努めます。そして、将来を担う子どもたちが伝統文化の継承や鑑賞に関心を持つ契機となるよう、日本舞踊や和楽器の演奏、茶道・華道など、伝統文化を体験する機会を設けます。

また、無形文化財や文化財を支える技術・技能の伝承者に対する支援を行うとともに、関係者や関係団体・機関が交流し、情報交換や意見交換を行うことで、伝統文化の保存・継承の推進体制を強化します。

郷土芸能・伝統技術の公開事業の実施や記録映像等の作成

郷土芸能や伝統技術の保存のための公開事業や記録映像等の作成を行います。また、体験事業等の実施により、普及や担い手育成への意識の醸成を図ります。

児童生徒に対する伝統文化にふれる機会の提供

児童生徒が、専門家の指導のもと、伝統文化を鑑賞したり、所作を体験したりすることにより、伝統文化に関心をもつ機会を設けます。

児童生徒に対する伝統文化の継承

伝統芸能や生活文化の専門家を学校や地域が指導者として招き、児童生徒が授業や部活動等で指導を受ける機会を設けます。

千葉県伝統的工芸品の指定、後継者養成

地域の生活に根ざし、受け継がれてきた技術によって作成される工芸品を、「伝統的工芸品」として指定し、技術を受け継ぐ後継者の養成等を行います。

郷土芸能・伝統技術を取り巻く地域の関係者・関係機関との交流や後継者育成の取組

各地の関係者や関係機関による情報交換を行い、郷土芸能や伝統技術の保存や後継者育成のための推進体制を強化することにより、保存・継承に取り組みます。

文化財の保存整備の支援

文化財を保護し、次世代へと継承するために、文化財の調査・指定を行うとともに、計画的な修復や保存技術、防災対策など、保存に必要な措置を行っていきます。

さらに、文化財の収集・保存・公開・活用を図っていく際には、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が文化財に親しむ機会を提供します。

指定文化財の保存に配慮した活用と公開の推進

国及び県指定文化財の保護に努め、広く公開・活用するために、博物館等での適切な活用を図るとともに、文化財所有者や市町村を支援します。

埋蔵文化財の適切な調査及び情報公開、活用の推進

埋蔵文化財の調査の円滑な実施に努めるとともに、成果発表機会の充実や、学校等との連携による活用を図ります。

文化的景観等の保全・活用

県では、「ちば遺産 100 選」のほか、「ちば文化的景観」として 8 ゾーン 60 の景観を選定しました。これらは、人々の生活または生業及び当該地域の風土により形成された本県を代表する景観地であるとともに魅力ある地域であり、これらを保全していくことはもちろん、観光振興などに活用できるようにしていきます。

文化財や文化的景観を歩く「文化財探検隊」の実施

地域の文化財をめぐる「文化財探検隊事業」を通じて、県民の郷土の自然、歴史、文化等に関する理解を深め、文化財保護の大切さや郷土愛をはぐくみます。

都市整備分野における文化的まちなみや景観の保全

都市整備分野との連携により、文化的まちなみや景観の保全のための普及・啓発に取

り組みます。

文化資源の活用と地域の活性化

歴史的建造物や史跡、郷土芸能、あるいは博物館等に所在する文化資源を発掘し、活用することにより、まちづくりや観光、産業振興等に活用する取り組みを進めます。

また、市町村・観光協会・企業などと連携して、生活文化や文化遺産、伝統的町並み・文化的景観などにも再度光を当て、多くの人びとの目にふれるようにすることによって、新たな生命を吹きこみます。

文化資源を活用したまちづくり

県内の文化財や郷土芸能のほか、県内から輩出した偉人、芸術作品ゆかりの地を文化資源として発信し、まちづくりに生かします。

県内各地で文化資源をまちづくりの参考にしてもらうため、歴史的町並みや伝統行事を活用した事例などを紹介します。

ちばの文化資源情報の提供

県ホームページ「ちば文化交流ボックス」を活用して、各地の文化資源を紹介します。

文化遺産の中で行うコンサート等の開催

歴史的建造物や史跡などでのコンサートや演劇等の開催を支援することにより、多くの方が訪れる機会を提供します。

観光振興や国際交流における文化資源の活用

歴史的町並みやお祭りなどの文化資源を、メディアやフィルムコミッション等を通じて国内外に向けて情報発信するとともに、映画やテレビ等への撮影の支援を行い、県への撮影誘致を積極的に推進しつつ、観光情報の提供、郷土芸能による国際交流を進めます。

映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるための非営利公的機関。

日本遺産認定への取組

地域の魅力や文化財をストーリーでつなぎ紹介し、地域振興を目指す日本遺産の認定に取り組みます。

< 成果指標 >

目標項目	現状 (平成 26 年度)	目標 (平成 32 年度)
県立文化会館・美術館・博物館における 伝統文化体験事業の参加者数	約 3,500 人	増加を目指す
市町村等における文化資源を活用した 取組事例	市町村等における文化資源を活用した取組事例を収集・公表します。(定性)	

3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出 ～多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信するために～

多様な文化芸術の発展が、新たな「ちば文化」の創造であり、ちばの文化資源です。この地域の文化資源、「ちば文化」の魅力を発信することは、地域の魅力を再認識するきっかけとなります。

また、これまでの文化の概念にとらわれない新たな創造活動の魅力を引き出し、県内外に発信し、ちばをもっと知ってもらうことで、県民の地域文化に関する情報提供を求める声に応えるとともに、地域への愛着を深める機会としていきます。

< 施策の展開と主な取組 >

多様な文化の発展

若者の文化芸術活動は、これまでの文化の概念にとらわれることなく、未来の文化を創り出す大きな可能性を秘めています。若者による創造的な文化芸術活動をはじめとする既存の枠にとらわれない多様な文化の発展を支援します。

若者の文化芸術活動の支援

若者の団体が行う創造的な文化芸術活動を支援します。

市町村と連携した新たな創造活動の支援

県内各地で行われている多様な文化芸術活動や新しい創造活動について、市町村と連携し、情報収集や発信、活動の側面支援を行います。

文化会館での新たな創造活動の支援

新たな創造活動に対し、文化会館等と連携しながら、活動の側面支援を行います。

「ちば文化」の魅力を発掘と情報の収集・提供

県内各地の様々な文化情報や県民の文化的ニーズをきめ細かく把握して、様々な広報手段を活用し、積極的に情報提供するとともに、「ちば文化」の魅力発信を支援します。

発信にあたっては「ちば文化交流ボックス」をはじめ、「デジタルミュージアム」・「ふさの国文化財ナビゲーション」など、インターネットを活用したシステムを運営します。

県ホームページや県刊行物等を活用した「ちば文化」の発信

県内各地の文化資源や文化イベント、文化芸術団体、文化ボランティアなどの情報を掲載している「ちば文化交流ボックス」や、観光分野等様々な分野の刊行物等を通じて、「ちば文化」に関する情報を発信します。

県内の文化財の概要と所在地等の情報提供

県内の約 2 万 9 千箇所の埋蔵文化財包蔵地、国・県指定の文化財のデータを収録している「ふさの国文化財ナビゲーション」により県内の文化財の情報を提供します。

博物館・美術館の収蔵資料の情報提供

県立博物館・美術館の収蔵資料に解説を付し、インターネット上でストーリー性のあ

る展示を行います。

市町村と連携した情報収集と提供

県と市町村等が連携し、各々で収集した情報を共有し、広く県民へ情報提供します。

「ちば文化」の魅力を発信する文化事業の充実

「千葉・県民芸術祭」や「県民の日」行事等の様々な機会を利用して、多彩で個性あふれる「ちば文化」の魅力を国内外に発信し、「ちば文化」の魅力にふれる機会を提供することで、県民が郷土に愛着と誇りを感じ、千葉県民のアイデンティティを醸成します。

「県民の日」の機会を利用した、「ちば文化」の紹介

6月15日の「県民の日」を中心とした行事等を利用して、多くの県民が「ちば文化」の魅力にふれ、郷土に愛着と誇りを感じることができる機会を提供します。

様々な事業を通じての「ちば文化」の国内外への発信

「千葉・県民芸術祭」や毎年秋に開催される「国民文化祭」への文化芸術団体の参加をはじめ、国内外で開催される様々な事業を通じて「ちば文化」を紹介するとともに、様々な媒体を活用して「ちば文化」の魅力を広く海外に紹介し、より多くの人々が千葉県を訪れ、「ちば文化」にふれることを目指します。

また、全国的にも水準の高い、オーケストラや吹奏楽、合唱をはじめとした音楽分野については、関係機関と連携し、その魅力を県内外に発信します。

県内外の文化施設による共同事業・広報協力

それぞれの文化施設の持つネットワークを活用し、県内外の文化施設との共同事業や広報協力を通じて、県内外へ「ちば文化」を発信します。

国際交流事業の実施

海外の文化芸術団体等との交流の場を通じて、広く「ちば文化」を紹介し、発信します。

< 成果指標 >

目標項目	現状 (過去5年間の平均値)	目標 (平成32年度)
「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数	約20万件	増加を目指す
多様な文化や創造活動への市町村等の取組事例	多様な文化や創造活動への市町村等の取組事例を収集・公表します。(定性)	

4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築

～「ちば文化」を支えるひとを育て、つなぐために～

ひとづくり、ネットワークや支援体制の構築、文化施設の機能充実などの文化芸術を支える基盤が安定することにより、安定した文化芸術活動を行うことができ、それにより文化資源を活用し、地域活性化を図ることができます。

文化の多様化に伴い、多様な支援体制の構築、関係団体や国・市町村などとの一層の連携、さらに観光・産業等の幅広い分野との連携が必要であることから、総合的な体制を整えていきます。

また、文化振興のための体制の整備として、文化発信拠点となる文化施設の機能充実と連携強化を図ります。

< 施策の展開と主な取組 >

「ちば文化」を担うひとづくりの推進

地域の文化芸術活動を活性化するため、文化芸術活動を企画、運営していく人材を育成します。また、文化芸術団体や郷土芸能の保存団体と連携して、今後の活動を担う人材の育成を図ります。

また、新たな「ちば文化」の創造に向け、文化芸術活動で顕著な成果を収めた人や団体の功績をたたえ、表彰することは、文化芸術の振興を図るうえで重要です。

このため、文化芸術活動に係る顕彰を実施します。

地域の文化芸術活動を支える人材の育成

地域の文化芸術活動の拠点となる文化施設などと連携し、地域の文化芸術活動を支える人材の育成を支援します。

文化芸術や郷土芸能を担う人材の育成

文化芸術の振興や郷土芸能の保存・継承のため、関係団体と連携して、今後の活動を担う人材の育成を図ります。

顕彰の実施

新たな「ちば文化」の創造に向け、文化芸術活動で顕著な成果を収めた人や団体の功績をたたえ、表彰します。

文化のネットワークの構築

県民の自主的な文化芸術活動を支援するため、県、市町村、文化芸術団体、NPO、企業、大学等が交流や連携を強化して、「ちば文化」を支える連携のシステムを構築します。

また、観光・産業等の幅広い分野との連携を図りながら、地域文化の振興や文化情報の発信を推進します。

こうした連携体制づくりの契機となるよう、市町村や文化芸術団体などと情報共有し、各地域の状況を収集、提供していきます。

情報交換・意見交換会の開催

県と市町村のほか、文化施設の指定管理者等も参加して、文化振興施策や県内の文化芸術活動の状況などの情報交換・意見交換会を開催します。

文化芸術団体、NPO、大学等との連携

文化芸術団体、NPO、大学等と連携し、県ホームページ等の各種広報媒体を通じて、文化芸術団体等の活動を紹介することにより、発表の場と鑑賞機会を提供し、文化芸術活動のネットワークを広げていきます。

県内の郷土芸能保存団体のネットワーク化の推進と活性化

郷土芸能の保存・継承に取り組んでいる県内各地の団体のネットワークを活性化し、情報交換や方策の検討を行います。

県内外関係機関等との連携

関係機関等が持つ既存のネットワークによる情報共有を活用するとともに、新たなつながりや既存の枠にとらわれない様々なつながりにより、広く関係機関等との連携を図り、情報交換や総合的な文化振興施策の推進につなげます。

観光・産業等の幅広い分野との連携

観光・産業等の幅広い分野との連携を図りながら、地域文化の振興や文化情報の発信を推進します。

多様な支援体制の構築

県内では、様々な団体が文化芸術活動を展開しています。こうした団体がそれぞれの分野の魅力を発信し、人材の育成やジャンルを超えた交流を進めていくことにより、県民の文化芸術活動が一層活性化するものと考えられることから、文化芸術団体を支援し、これら団体と共催事業を開催するとともに、広く文化芸術活動の情報を提供することにより、県民が参加しやすい体制整備を図ります。

また、文化芸術活動を支援する企業等と、文化芸術団体等との連携を促進し、資金の提供ばかりでなく、マンパワーの提供や活動場所の確保という手法での支援など、支援をする側にとっても支援を受ける側にとっても有意義となる支援ができるよう、情報交流を図ります。

支援体制については、国が行う日本版アーツカウンシル(文化芸術に関する公的助成機関)の状況や寄附に関する制度、住民の意識の動向を見極め、文化芸術活動に対する助成について、より適切で効果的な支援のあり方を検討していきます。

文化団体に対する支援

文化芸術団体との共催で「千葉・県民芸術祭」を開催したり、県内の文化芸術団体等が行う事業を後援したり、県ホームページ「ちば文化交流ボックス」などを活用し、多くの県民が県内各地で行われる文化芸術活動に参加できるよう支援します。

文化芸術活動に対する助成については、国が行う日本版アーツカウンシルの導入状況や寄附をめぐる制度の動向等を見極め、より適切で効果的な支援のあり方を検討していきます。

企業メセナ等による支援の促進

県ホームページや公益財団法人千葉県文化振興財団に相談窓口を設置するなど、企業メセナ活動に関する情報や、文化芸術活動に関する国・民間の助成制度に関する情報を周知し、助成制度の活用を図ります。

文化のネットワークを活用した多様な支援の促進

文化芸術活動を助成する団体と支援を希望する文化芸術団体等との情報交流を図り、有意義な支援ができるよう側面支援を行います。

文化発信拠点としての文化施設等の機能の充実

文化会館、美術館・博物館、図書館等の文化施設が、それぞれの分野における地域の核として「ちば文化」の創造の拠点の役割を果たすため、優れた舞台芸術や展示、普及事業の充実を図るほか、「文化のネットワーク」の拠点として、県民の文化芸術活動や学習活動の支援機能を充実することにより、これら施設の機能の充実を図ります。

特に、県立文化施設では、利用者のニーズや各施設の特性に応じて、専門的知識や情報発信力のある人材を育成し、その能力を最大限に活用して、効果的な事業の実施や多面的な施設運営を行い、もって文化芸術の継承・発展を図ります。

また、公民館や学校等は、地域に根差した文化芸術活動や学習活動の場となっており、地域の特性を活かしながら、地域文化の拠点として活用します。

文化施設の機能の充実

地域の文化芸術の拠点として、県民のニーズに対応した多様な文化事業や県民参加による事業を行うほか、芸術家や県民、文化芸術団体、市町村の機関等との交流や連携の強化、人材の育成などに努めます。

文化会館での美術作品の展示や美術館・博物館でのミニコンサートなど、施設の多面的な活用も進めます。

本県ゆかりの作家や本県の歴史や自然に関わる展覧会等や海・山・川など地域の自然や文化を活用した体験的活動「フィールドミュージアム」をはじめとした、魅力のある事業を企画・実施し、多くの県民、特に子どもたちが千葉県の文化や歴史・自然にふれる機会を増やします。さらに、県立文化会館・美術館・博物館を拠点として県内外に「ちば文化」を発信します。

県立図書館では、市町村図書館等との連携を強化し、県民の読書・調査・研究活動の支援の充実を図ります。

公民館については、地域の文化活動の核となっていることから、文化施設同様、文化発信拠点として、より広く地域に開かれた事業展開していきます。

学校の文化施設等の活用

学校の文化施設や地域交流施設等を活用し、文化芸術団体等の活動支援を行うとともに、県立学校が保有する優れた教育機能を地域に開放し、地域活性化を図ります。

< 成果指標 >

目標項目	現状 (平成 26 年度)	目標 (平成 32 年度)
地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合	33.3%	50.0%
福祉・観光・産業分野等での文化芸術の活用事例	福祉・観光・産業分野等での文化芸術の活用事例を収集・公表します。(定性)	

5 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上 ～更なる発展に向けて～

東京 2020 大会の文化プログラム関連イベントを観光等様々な分野と連携して、実施することで、本県の文化的魅力を県内外に発信し、県内の文化振興及び地域活性化を図ります。また、実施にあたり構築したネットワークやノウハウ等を資源とし、オリンピック後の本県の文化芸術活動及び地域の継続的な活性化につなげます。

< 施策の展開とおもな取組 >

新しい文化と古くからの文化が織りなす「ちば文化」の世界への発信

古くから県内各地で守り伝えられてきた郷土芸能等の伝統文化と、近年注目されているデジタルアート（電子機器等を利用した芸術）等の新しい文化との融合のように、様々な分野とコラボレーションすることで、「ちば文化」の魅力を再認識するとともに、その魅力を世界へ発信していきます。

文化プログラム関連イベントの実施

文化庁の取り組む文化プログラムである「文化力プロジェクト（仮称）」の一つとして県内の文化芸術活動を牽引するようなシンボリックな事業を実施します。

文化庁は 2016 年から 2020 年までの間で 20 万件のイベントを「文化力プロジェクト（仮称）」として認定することを目標としています。

オリンピック・パラリンピック競技が開催される幕張メッセ周辺での積極的な事業展開

オリンピック・パラリンピック競技の開催で注目が集まる幕張メッセ周辺で、様々な関係者と連携して、文化事業を展開することで、「ちば文化」を効果的に発信していきます。

障害者、高齢者、青少年、外国人等、国内外のあらゆる人々が参加・交流できる機会の創出

あらゆる人々が観客としてだけでなく、文化の担い手として参加・交流できる機会を創出します。

あらゆる人々が出演者・体験者・観客となる文化事業の実施

文化会館・美術館・博物館等の施設を活用して、あらゆる人々が観客としてだけでなく、出演者・体験者として参加できる事業を実施していきます。

また、無料公衆無線 LAN の整備の促進や、多言語に対応したタブレット端末向けの情報提供システムを検討し、手軽に情報が入手できる環境を整備することで参加を促します。

公募等に基づき様々な主体の新たな発想を取り入れた事業展開の促進

公募により申請のあった文化事業から、国の示すガイドラインに沿ったものを「文化力プロジェクト（仮称）」として認定することにより、様々な団体が実施する文化芸術活動の広報等を支援し、ちば文化の多様性を発信していきます。

外国人の受入体制と「ちば文化」の魅力発信

文化施設における多言語表記、無料公衆無線 LAN の整備を進め、「ちば文化」の魅力

を発信するとともに、SNS等を活用したさらなる魅力の広がりを目指します。

観光等様々な分野との連携による文化資源の活用

文化芸術が、経済や人口問題等の社会的問題の解決に貢献した事例が出てきており、今後、より一層、文化芸術の活用が求められると考えられます。教育や観光等様々な分野と連携することで、千葉県の有形・無形の文化資源を活用し、地域の活性化を図ります。

観光等の様々な分野と連携した文化資源の魅力発信及び地域の活性化

県内の文化資源の情報を観光や国際交流の分野に提供することで、文化芸術以外の分野での活用を促し、地域の文化資源に注目を集めることで地域の活性化に繋がります。

先端技術と芸術を融合させた新たな文化の紹介

近年、様々な分野で取り入れられ、注目されているプロジェクションマッピング等の先端技術と既存の芸術を融合させることで、新しい芸術の楽しみ方を提供します。

映像やコンピューターグラフィックス等を立体物等にプロジェクター等で投影する映像手法。

文化プログラム関連イベントの実施により得られた資源の活用

東京 2020 大会を契機に本県における文化芸術活動を活性化させ、新しく生まれたネットワークや、あらゆる人々が文化芸術活動の担い手として参加できるためのノウハウ、新たな魅力を見出した文化資源等を継承していきます。

連携して事業を実施した団体及び参加者とのネットワークを活かした事業展開

文化プログラム関連イベントを実施する上で新たに結ばれる団体と施設とのネットワークを活かし、文化芸術活動及び文化芸術活動を行う場としての文化施設双方の活性化を図ります。

様々な分野との地域の文化資源情報の継続的な共有

東京 2020 大会を契機につくられる県庁内関連各課や市町村、文化芸術団体等とのネットワークも活用し、観光等様々な分野への情報提供を継続し、文化資源の活用を図ります。

< 成果指標 >

目標項目	現状 (平成 26 年度)	目標 (平成 32 年度)
千葉県での「文化力プロジェクト(仮称)」の認定件数		延べ 3,700 件
千葉県での「文化力プロジェクト(仮称)」の参加者からの「ちば文化」の魅力についての意見	参加者から「ちば文化」の魅力についての意見を収集・公表します。(定性)	